

# 横浜国立大学附属鎌倉中学校英語科における目標に準拠した評価の実践

齊田 智里<sup>1</sup>・亀山 弘二郎<sup>2</sup>・吉田 早希<sup>2</sup>・和田 雅広<sup>2</sup>・Stebbins Antoine<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>横浜国立大学、<sup>2</sup>横浜国立大学附属鎌倉中学校)

## Practice of Criterion-Referenced Evaluation on English Education at Kamakura Junior High School of Yokohama National University

Chisato SAIDA<sup>1</sup>・Koujiro KAMEYAMA<sup>2</sup>・Saki YOSHIDA<sup>2</sup>・Masahiro WADA<sup>2</sup>・Antoine STEBBINS<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>Yokohama National University, <sup>2</sup>Kamakura Junior High School of Yokohama National University)

キーワード：目標に準拠した評価、学習到達目標、CAN-DO リスト、観点別評価、PDCA サイクル

### 1. 英語科における目標に準拠した評価

外国語教育において、学習中の外国語を用いてできることを、「～ができる」という Can-do 形式で記述し、能力記述文一覧として指導や評価に活用していくことが広く行われるようになってきた。その方向づけを明確に示したのが、2001年の欧州評議会（Council of Europe）による『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment：以下、CEFRと表記）』（Council of Europe, 2001）の出版（英語版）である。ヨーロッパ域内で国や言語の違いを超えて、言語教育専門家などが言語学習、教授法、評価法に関する相互理解やコミュニケーションを促進するための基盤となる共通参照枠組みを CEFR として提示した。「全体的な尺度」として6段階の言語熟達度レベルを例示的能力記述文で表現し、より詳細に「理解すること（リスニング）、（リーディング）」、「話すこと（やりとり）、（表現）」、「書くこと」の領域ごとに言語熟達度を6段階の能力記述文で表現し、「自己評価表」として共通参照レベルを提示している。

CEFRは40か国語に翻訳され、今ではヨーロッパ域外の外国語教育においても普及している。日本の外国語教育でも、外国語を用いてできることを Can-do 形式で表現し、指導や評価に活用していくことが近年行われるようになってきた。文部科学省設置の「外国語能力の向上に関する検討会」では、現行学習指導要領が実施されるのにあわせて2011年6月に、「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」をとりまとめた（文部科学省外国語能力の向上に関する検討会、2011）。その中で、「生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証することとし、中学校卒業段階で英検3級程度、高等学校卒業段階で2級～準2級程度を目安にするという「行動計画」（文部科学省、2003）の着実な実現を目指すことに加えて、各中・高等学校では、学習指導要領に基づき生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を、英語を用いて「～ができる」という「CAN-DO リスト」の形で具体的に設定することとした（提言1）。このことで、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫改善がなされること、生徒の英語力の水準向上につながることで、さらに小中高等学校で一貫性のある学習到達目標を作成することで、小中高連携した英語教育の実現も可能となることが期待されるとしている。

提言1を受けて、各学校において学習到達目標を「CAN-DO リスト」形式で設定し活用する際の参考として、文部科学省は2013年3月に、『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』（以下『手引き』と表記）を公表した（文部科学省初等中等教育局、2013）。『手引き』では、学習指導要領に基づき生徒が身につける能力を、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の2観点について、各学校の生徒の学習の状況や地域の実態等を踏まえた上で、言語を用いて「～することができる」という形で卒業時の学習到達目標として設定すること、さらに学年ごとにも学習到達目標を設定することとし、これらを年間の指導と評価の計画へ反映させることを通して指導と評価の一体化を図ることとした。

文部科学省は提言1の達成状況を把握するために、毎年実施の「英語教育実施状況調査」で、「CAN-DO リスト」形式で学習到達目標を設定する学校の割合を中学校と高等学校に分けて公表している。平成28年度調査では、「CAN-DO リスト」形式で学習到達目標を設定する学校が、高校で88.1%、中学校で75.2%と、平成25年度の調査以来急速に増加し高水準となった一方で、設定した目標を公開している学校は3割未満と低く、目標の達成状況を把握している割合も半分以下であり、「CAN-DO リスト」の活用が現在の課題と捉えている（文部科学省、2017）。

以上のように、各学校では英語科の学習到達目標を「CAN-DO リスト」形式で示すことになったが、観点別学習状況の評価との関係でいえば、学習到達目標は2観点のみに対応しており、目標に準拠した評価を行うためには、他の2観点をどう扱うかという点が課題となる。文部科学省は学習評価の在り方として、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を把握する評価（目標に準拠した評価）を行うために、各教科で観点別学習状況の評価と、観点ごとの評価を評定として総括する方針を確認している（文部科学省初等中等教育局教育課程課、2010）。現行学習指導要領下では、各教科で学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現された場合に「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」の4観点においてどのような状態になっているかを具体的に評価規準として設定することとした。外国語科ではこの4観点を「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「外国語表現の能力」、「外国語理解の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」に対応させ、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」を内容のまとまりとし、それぞれ4観点で評価規準を設定することとした（国立教育政策研究所、2011）。「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」と「言語や文化についての知識・理解」については「～している」という表現で、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」については「～ができる」という表現で、4技能ごとに目標に到達した評価規準の設定例が示されている。

しかし『手引き』によると、「CAN-DO リスト」形式で学習到達目標を設定するのは、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の2観点である。残りの2観点については、『手引き』の13頁で、「なお、観点別学習状況の評価においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点を合わせて評価することになる。」との記述があるのみである。文部科学省の英語教育実施状況調査では、「CAN-DO リスト」形式での学習到達目標の設定と活用の割合が都道府県別に公表し比較されるので、教育現場では「CAN-DO リスト」形式で目標が設定される2観点のほうにより注意が向くことになる。実際、『手引き』をもとに、各教育委員会では「CAN-DO リスト」の設定や活用についての指針を示しているが、それらの多くは『手引き』で指摘されている通り、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の2観点のみを

扱い、あとの観点については言及のないものが多い（島根県義務教育庁義務教育課、2014；吉村・富田・川崎、2016 など）。その中で兵庫県教育委員会は、4 技能の「兵庫版基本 CAN-DO リスト」（「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の2 観点）に加えて、「英語学習を支える3 領域チェックリスト」として「関心・意欲・態度」、「論理的思考力」、「文化理解」の3 領域を設定し、包括的な目標の設定と活用を提案している（兵庫県教育委員会、2015）。

学習指導要領の目標に準拠した評価を着実に実施していくためには、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の2 観点における「CAN-DO リスト」形式での学習到達目標の設定とともに、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点についても学習指導要領に基づいた目標設定をし、観点別学習状況の評価を実践していくことが、目標と指導と評価の一体化を図ることにつながり、これまでの文部科学省の学習評価の方針とも整合性がとれるのではないかと考えられる。

本稿は、中学校英語科における目標に準拠した評価を上記の視点から着実に実行するために、生徒が目指す姿を具体的に目標として記述した上で、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を設定し、生徒とこれらの目標を共有することで、目標・指導・評価の一体化に取り組んだ横浜国立大学附属鎌倉中学校英語科の実践報告である。本稿の目的は、下記の2 点である。

1. 附属鎌倉中学校において、英語科の目標をどのように設定したかを明らかにする。
2. 目標の達成状況を、どのように評価し、指導の改善に活かそうとしたかを検討する。

## 2. 附属鎌倉中学校英語科における目標に準拠した評価の実践

### 2-1 目標の具体化への取組

#### (1) 学校のチーム英語科として育てたい生徒の「目指す姿」を明確にする

附属鎌倉中学校では、学習到達目標を作成するにあたり、社会の変化の主な動向等に着眼しつつ、今後求められる資質や能力を効果的に育成する観点（国立教育政策研究所、2013）に基づき、まず教師自身が今の社会の動向を捉え直しチーム英語科としてどのような生徒の育成を目指していくのかを明確にすべきであると考えた。そこでまず、学校教育目標から出発することとした。附属鎌倉中学校の学校教育目標は下記のとおりである（横浜国立大学附属鎌倉中学校、2015）。

豊かな心を持ち、国際社会をたくましく生きていく人間への成長を願い、次のような生徒を育成する。

- ・はっきりした自分の目標を持ち、自己実現をめざし、自分のよさを発揮する生徒。
- ・思いやりの心を持ち、互いの尊さを認め合い、共に生きることに喜びを見いだせる生徒。
- ・社会の一員であることを自覚し、力を合わせてよりよい社会をつくろうと努める生徒。

学校教育目標に示される「国際社会」の現状を、英語科の教員は「地球規模の課題、例えば、平和、格差社会、エネルギー、環境問題など、一国・個人の取り組みだけでは解決できない課題や山積している社会」と捉えた。そして、学校教育目標と学習指導要領（文部科学省、2008）に示される外国語科の目標を重ね合わせて、次のような生徒の育成を目指すべきであると考えた。

- ・自分のよさを発揮する生徒 = 積極的に自分の気持ちや考えを表現する生徒
- ・互いの良さを認め合う生徒 = 積極的に他者の気持ちや考えを理解する生徒
- ・力を合わせてよりよい社会をつくろうとする生徒 = 異なる文化をルーツにもつ人とも協

力し、問題解決に向けて自分の気持ちや考えを積極的にやりとりする生徒

以上の考えに基づいて、卒業後の目指す姿を「他者や世界に関心を持ち、よりよい社会の構築と自己実現のために、英語を学び続け、自分の気持ちや考えを積極的にやりとりする市民」と設定した。また、各学年での「目指す姿」を段階的に設定した。この「目指す姿」は、現行の学習指導要領や『論点整理』（教育課程企画特別部会、2015）を参考にし、附属鎌倉小学校との小中連携を進める中で改善を重ね、図1のようにまとめた。

|                           |                         |                               |                      |                                          |                                            |                                         |                                                            |                                                              |                                                               |
|---------------------------|-------------------------|-------------------------------|----------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 日本語とは違う言語と出会い、英語の世界を楽しむ児童 | 日本語との違いに気づき、英語の世界を楽しむ児童 | 言葉を使う時の心地よさや伝えられたときの達成感を味わう児童 | コミュニケーションの心地よさを味わう児童 | コミュニケーションの心地よさを味わい、外国語を通して他者と関わることを楽しむ児童 | コミュニケーションの心地よさを、外国語活動を通して作り出し、他者と関わろうとする児童 | 自律的に学び、相手に配慮しながら、英語をつかって積極的に他者とやりとりする生徒 | 自律的に学び、「伝えたい・知りたい」という気持ちをもって、相手に配慮しながら、互いの気持ちや考えを適切に伝え合う生徒 | 自律的に学び、他者や世界に関心を持ち、4技能を統合的に活用し、相手に配慮しながら、互いの気持ちや考えを適切に伝え合う生徒 | 他者や世界に関心を持ち、よりよい社会の構築と自己実現のために、英語を学び続け、自分の気持ちや考えを積極的にやりとりする市民 |
| 小1                        | 小2                      | 小3                            | 小4                   | 小5                                       | 小6                                         | 中1                                      | 中2                                                         | 中3                                                           | 卒業後                                                           |

図1 附属鎌倉小学校・附属鎌倉中学校の各学年で生徒が目指す姿（英語科）（2016年度版）

この「目指す姿」は、「英語をコミュニケーションの手段として扱う能力を身につけた上で、どのように他者や世界と関わって欲しいか」を具体的に表現したものであり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の「3つの柱」として中央教育審議会答申に示された「資質・能力」（中央教育審議会、2016）を総合的に捉えて記述をした。

## (2) 「目指す姿」から「学習到達目標」へ

「目指す姿」の作成を通して、特に「気持ちや考えをやりとりする力」を育てたいという願いを英語科教員で共有した上で、各学年の学習到達目標を「CAN-DO リスト」の形式で設定した。その際、CEFR-J（投野編、2013）を参考にし、話すことを「やりとり（Spoken Interaction）」と「発表（Spoken Production）」に分けて5領域で設定した。表1が、附属鎌倉中学校の学年別学習到達目標（2016年度版）である。

能力記述文の作成に当たっては、①どのような内容について（言語活動の内容）、②どのような条件で（「ゆっくり話されれば」や「補助資料などを用いて」など）を示すようにした。

話すこと（やりとり）と話すこと（発表）の能力記述文は当初、1年生は1分間、2年生は2分間、3年生は3分間という条件が示されていたが、3年生では単にコミュニケーションを継続したり、長い時間話すことを求めるのではなく、目的・場面・状況に合わせて適切なやりとりをしたり、適切な補助資料を用いたり、まとまりよく話したりすることができるようになってほしいという願いを込めて、表1のような表現にした。

書くことについては、1年生では「たくさん」、2年生では「まとまりよく」、3年生では「一貫性のある文で」と、能力記述文に段階をつけて表現をした。

聞くことと、読むことについて、次期中学校学習指導要領外国語科（文部科学省、2017）では、①概要を捉える、②必要な情報を読み〔聞き〕とる、③要点を捉える、の3つの聞き方と

読み方が書き分けられている。附属鎌倉中学校で使用している検定教科書『Sunshine English Course』（松畑・佐野監修、2014）の1～3年生を概観すると、使える語彙や表現が増えてくる2年生以降になって、物語や説明文など、様々なタイプの文章がでてくる。こうした理由から、1年生では、概要をつかんで読んだり聞いたりすることを目標にし、2年生以降で目的に合わせて「的確に読み取りとる」ことを能力記述文として記述した。

また、2015年度末に現行指導要領を見直した際、技能統合的な力の育成を目指した指導が十分にできておらず、目標にも明確に示すことができていなかったため、2016年度は、5領域の到達目標とは別に、1～3年生の発達段階に応じた、技能統合的な力を明記した。

表1 附属鎌倉中学校英語科の学年ごとの学習到達目標（CAN-DO リスト）（2016年度版）

| 1年生                                                                            | 2年生                                                                   | 3年生                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| ≪話す力(やりとり)≫<br>自分自身や身の回りのことについて、教師または友人と、手元にある写真や資料を用いながら、(1分間程度)会話を続けることができる。 | ≪話す力(やりとり)≫<br>身近なテーマについて、教師または友人と手元にある写真や資料を用いながら、2分間程度会話を続けることができる。 | ≪話す力(やりとり)≫<br>身近なテーマについて、他者が話したことについて、手元にある写真や資料を用いながら、適切なやりとりすることができる。           |
| ≪話す力(発表)≫<br>自分自身や身の回りのことについて、1分程度の発表をすることができる。                                | ≪話す力(発表)≫<br>・身近なテーマについて、2分程度の発表をすることができる。                            | ≪話す力(発表)≫<br>身近なテーマについて、自分の考えを伝えるために適切に補助資料などを用いて、発表をすることができる。                     |
| ≪書く力≫<br>自分自身や身の回りのことについて、たくさんの英文を書くことができる。                                    | ≪書く力≫<br>身近なテーマについて、自分の気持ちや考えを含んだ、まとまりある英文を書くことができる。                  | ≪書く力≫<br>身近なテーマについて、自分の気持ちや考えを含んだ、一貫性のある英文を書くことができる。                               |
| ≪聞く力≫<br>身の回りのことについて、まとまりのある英文を聞いて、概要を理解することができる。                              | ≪聞く力≫<br>身近なテーマについて、話されるまとまりのある英語を聞いて、内容を的確に理解することができる。               | ≪聞く力≫<br>身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、話し手の意図を的確に理解することができる。                  |
| ≪読む力≫<br>身の回りのことについて、書かれた簡単な英文を読み、その概要を理解することができる。                             | ≪読む力≫<br>身近なテーマについて書かれたまとまりのある文を読み、内容を的確に理解することができる。                  | ≪読む力≫<br>身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を的確に読みとったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解したりすることができる。 |
| ≪統合的な力≫<br>身の回りのことについて、聞いたり読んだりした内容について、簡単に伝えることができる。                          | ≪統合的な力≫<br>身近なテーマについて聞いたり読んだりした内容について、自分の気持ちや考えを伝えることができる。            | ≪統合的な力≫<br>身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えを話したり書いたりすることができる。                    |

### (3) 学習到達目標を年間指導計画と関連付ける

島根県義務教育庁義務教育課（2014）を参考にして、「目指す姿」と「学習到達目標（CAN-DO リスト）」を年間指導計画と関連づけ、年間指導計画と「CAN-DO リスト」（表2）を作成した。

目指す姿と学習到達目標（CAN-DO リスト）を年間指導計画と関連付けるために、次の5つの点に留意した。

(1) 学年別の到達目標の欄：年間指導計画の上部に年間で育成を目指すⅠ「目指す姿」、Ⅱ「学習到達目標」、Ⅲ「知識・技能」を書き入れ、教師が指導計画を作る際に一年間で育成を目指す

学習到達目標が一目で分かるようにした。

(2) CAN-DO の具体化の欄：1年間で育成を目指す学習到達目標を実現するために、各単元では「何をどのようにできるようにさせるのか」を具体的に考え、「1つの単元や複数の単元で育成を目指すCAN-DO」を記述した。例えば、『Sunshine English Course 3』（松畑・佐野監修、2014）のProgram 1では、年間の学習到達目標の「読むこと」の目標の実現を目指して、教科書を使って「野菜や果物の起源について書かれた文章を読んで、その概要を的確に理解する力」の育成を目指す。言語活動の内容の「身近なテーマ」が、「野菜の歴史や起源」と具体化されている。さらに、どのような条件でできるのかを具体的に記述する。一年間で長期的に付けたい力である年間の学習到達目標を「学習到達目標」と表記し、1つか複数の単元で短期的・中期的に付けたい力として書き出した目標を「CAN-DO」と表現することにした。

(3) 領域別の列：5領域の中で特に育てたい重点となる領域と、指導の過程で副次的に関わる重要な領域を明示した。これがあることで、年間の指導の中での5領域の指導のバランスを一目でわかるようにした。

(4) 定着を図るための帯学習の欄：定着を図るための帯学習（モジュール学習）を入れることで、単元や授業の構成をあらかじめ授業者がイメージして望めるように工夫した。

(5) 評価の欄：「CAN-DO」に書き出した力を、いつ、どのように評価するのかという、評価場面を書き出した。

表2 年間指導計画と「CAN-DO リスト」（3学年）（一部のみ掲載）

平成28年度 英語科 3年 年間指導計画 と CAN-DO リスト

|                                                                                                                                                                |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <b>3年生の到達目標</b>                                                                                                                                                |  |
| I 自律的に学び、他者や世界に関心をもち、4技能を統合的に活用しながら、相対に配慮し、互いの気持ちや考えを適切に伝え合う生徒。                                                                                                |  |
| II <話す力> 身近なテーマについて、他者が話したことについて、手元にある写真や資料を用いながら、適切なやりとりすることができる。<Spoken Interaction><br>身近なテーマについて、自分の考えを伝えるために適切に補助資料などを用いて、発表をすることができる。<Spoken Production> |  |
| <書く力> 身近なテーマについて、自分の気持ちや考えを含んだ、一貫性のある英文を書くことができる。                                                                                                              |  |
| <聞く力> 身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、話し手の意図を的確に理解することができる。                                                                                                 |  |
| <読む力> 身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を的確に読みとったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解したりすることができる。                                                                                |  |
| <統合的な力> 身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えを話したり書いたりすることができる。                                                                                                   |  |
| III IIの力を支える基礎的な語彙力と文法力を身に付けると共に、伝わる発音・イントネーション・リズムで話したり、伝わるように書いたりする技能を身に付ける。                                                                                 |  |

○育てたい重点となる技能 △副次的に関わる重要な技能

| 学期 | 月                                                                      | 単元                                                                 | 時数                                              | Program 主な学習内容<br>★言語材料<br>※ 他教科・他の領域とのつながり                                        | 定着を図るための<br>帯学習                                         | Can-Do の具体<br>学校全体で身に付けさせたい資質・<br>能力                                                            |                   |          |         |           | 評価       |          |
|----|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|----------|---------|-----------|----------|----------|
|    |                                                                        |                                                                    |                                                 |                                                                                    |                                                         | Spoken Interaction                                                                              | Spoken Production | writing  | reading | listening |          |          |
| 1  | 4<br>~<br>7                                                            |                                                                    | 48                                              | 討論をしようの<br>自分の主張の根拠を明確に伝えることができる。<br>※国語科（2年生）：討論をしよう<br>※社会科（3年生）：根拠をもって自分の意見を述べる |                                                         | あるトピックに対して自分の意見や考えをわかりやすく話したり、質問に答えたりできる。                                                       |                   | ○        | △       |           |          | 2学期会話テスト |
|    |                                                                        |                                                                    |                                                 | [Program 1]<br><b>A History of Vegetables</b><br>★受け身（復習）★現在完了（完了）                 | ・歌：One Thing<br>・不規則動詞の活用<br>・New Repeat Work<br>発音チェック | 野菜の歴史や起源について書かれた文章を読み、概要を理解することができる。（読んだことを、メモや資料を用いて、他者に伝達する言語活動）                              |                   | ○        |         | △         | 1学期定期テスト |          |
|    | [PowerUp 1 Speaking]<br>機内での会話                                         | ・歌：Have you ever seen the rain?<br>・Last Sentence Dictation(2年教科書) | 飛行機の機内で一般的にされる会話を理解し、会話を続けることができる。              | ○                                                                                  |                                                         |                                                                                                 |                   | 1学期定期テスト |         |           |          |          |
|    | [Program 2]<br><b>Volcanoes in Japan</b><br>★現在完了（継続・経験）<br>※理科（3年）：地理 |                                                                    | ・教科書の（登場人物の気持ちや内容について）適切に読み取り、読み取ったことを話すことができる。 | △                                                                                  |                                                         |                                                                                                 | ○                 | 1学期定期テスト |         |           |          |          |
|    | 6                                                                      |                                                                    |                                                 | ある条件を設定し、その中で自分の状況や様子について相手に伝え、相手を説得したり、誘ったりすることができる。                              |                                                         | 『すでに終えたこと、し終えていないこと、これまで継続してきたこと、経験』などに言及しながら、会話を続け、相手を誘ったり、説得したりすることができる。<br><b>人間関係を形成する力</b> | ○                 |          |         |           | 単元末会話テスト |          |

(4) 「自律的な英語学習者としての態度目標」と「学習到達目標」を生徒と共有する

1年間で身につけさせたい「学習到達目標」を、生徒にとってわかりやすい表現にして目標を教師と生徒が共有し、生徒が主体的に学習に取り組み、目標に準じて生徒自身が振り返りを行って自分の変化を把握することができるように、生徒と共有用の「CAN-DO リストとアンケート」(以下、「共有 CAN-DO」と表記)(表3)を作成した。その際、「目指す姿」に示される「自律的学び」や「他者や世界に関心をもち」といった、「自律的な英語学習者としての態度目標」も生徒と共有したいと考えた。そこで、上段に生徒の「英語学習への動機を把握するアンケート項目」や「コミュニケーションの態度目標」に関する項目(1~11)を、下段に学習到達目標に基づく項目(12~22)をというように、目標を大きく二つに分けて記述した。

表3 CAN-DO リストとアンケート「共有 CAN-DO」(注:4月(鉛筆)7月(赤ペン)12月(青ペン)3月(緑ペン))

|                                                                                   |    | 全く当てはまらない                                                                                                                | あまり当てはまらない | まあまあ当てはまる | 非常に当てはまる | う学科    |   |          |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------|----------|--------|---|----------|---|
|                                                                                   |    | 1                                                                                                                        | 2          | 3         | 4        |        |   |          |   |
| <b>3年生 CAN-DOリスト と アンケート</b>                                                      |    |                                                                                                                          |            |           |          |        |   |          |   |
| 一年間で目指す姿: 自立的に学び、他者や世界に関心をもち、聞く・話す・読む・書くことを必要に応じて組み合わせながら、互いの気持ちや考えを適切に伝え合うことができる |    |                                                                                                                          |            |           |          |        |   |          |   |
| アンケート                                                                             | 1  | 私は英語の学習が好きである。                                                                                                           |            |           |          | ①      | ② | ③        | 4 |
|                                                                                   | 2  | 友達や先生と英語でやりとりすることに、楽しいと思う。                                                                                               |            |           |          | 1      | ② | ③        | 4 |
|                                                                                   | 3  | 英語で相手に自分の考えや気持ちを伝えることは楽しいと思う。                                                                                            |            |           |          | ①      | ② | ③        | 4 |
|                                                                                   | 4  | 英検について                                                                                                                   |            |           |          | (4 3)級 |   | 受けたことがない |   |
| 学習方略                                                                              | 5  | 分からない単語がある時や、表現の仕方が分からない時に、積極的に英和辞典や和英辞典を使っている。                                                                          |            |           |          | ①      | 2 | ③        | ④ |
|                                                                                   | 6  | 辞書を引く、例文をみてその語の使い方を確認することで、自分が書いた英文が正しいかどうか、検証することができる。                                                                  |            |           |          | 1      | ② | ③        | ④ |
|                                                                                   | 7  | 表現の仕方が分からない時に、英語で先生にHow do you say~? What does ~mean?を使って、積極的に聞いている。                                                     |            |           |          | ①      | ② | ③        | 4 |
| コミュニケーションへの関心・意欲・態度                                                               | 8  | 英語で話したり、書いたりする時に、相手に積極的に自分の気持ちや考えをやりとりしている。                                                                              |            |           |          | 1      | ② | ③        | 4 |
|                                                                                   | 9  | 英語を聞いたり、読んだりしている際、多少分からない事があっても、そのわからずに耐えながら、内容に関心をもって、聞き続けたり、読み続けたりしている。                                                |            |           |          | 1      | ② | ③        | ④ |
|                                                                                   | 10 | 友達や先生と英語で会話をしている時に、分からないことがあると、積極的に Pardon? One more time, please と聞き返したり、Will you speak slowly? などと要求したりすることを、積極的にしている。 |            |           |          | ①      | ② | ③        | 4 |
| 話す事<br>書く事<br>(やりとり)                                                              | 11 | 友達や先生と英語で会話をしているときに、自分が表現したいことが英語で分からない時でも、知っている単語を並べたり、身振り手振りを交えたりして、相手に伝えようとしている。                                      |            |           |          | 1      | ② | ③        | ④ |
|                                                                                   | 12 | 自分の経験、継続してきたこと、やり終えたことや、過去のこと、未来のこと、将来の夢や希望、などについて、相手が話したことに適切に応答しながら、3分程度会話を続ける事ができる。                                   |            |           |          | 1      | ② | ③        | 4 |
|                                                                                   | 13 | 人の意見を聞いたり、読んだりして、その意見に賛成・反対の立場を明らかにし、その理由を表現することができる。                                                                    |            |           |          | 話す 1   | ② | ③        | 4 |
| 話すこと<br>(発表)<br>書くこと                                                              | 14 |                                                                                                                          |            |           |          | 書く 1   | ② | ③        | ④ |
|                                                                                   | 15 | あるトピックに対して、自分の考えや意見、気持ちを論理的にわかりやすく、まとまりのある英文で相手に伝えることができる。(When, Because, So, And, If, But, First, Secondなどの表現を使って)      |            |           |          | 話す 1   | ② | ③        | 4 |
|                                                                                   | 16 |                                                                                                                          |            |           |          | 書く 1   | ② | ③        | ④ |
|                                                                                   | 17 | 目の前にある写真や絵に描かれている、人や物について、その名前やどんな人・物であるか、詳しく説明することができる。(過去分詞や現在分詞の後置修飾、関係代名詞を使って)                                       |            |           |          | 話す ①   | 2 | ③        | 4 |
|                                                                                   | 18 |                                                                                                                          |            |           |          | 書く 1   | ② | ③        | ④ |
| 聞くこと                                                                              | 19 | 身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことについて、その内容をメモ等を使いながら伝達したり、自分の意見や考えを述べる事ができる。(I think, I believe, because, whenなどを使って)              |            |           |          | 話す ①   | ② | ③        | 4 |
|                                                                                   | 20 |                                                                                                                          |            |           |          | 書く 1   | ② | ③        | ④ |
| 読むこと                                                                              | 21 | 身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、話手の意図を的確に理解することができる。                                                                  |            |           |          | 1      | 2 | ③        | ④ |
|                                                                                   | 22 | グラフなどを伴う2つ以上の物を比較する文章や、説明文、メールで相手の人が伝えたいことを、などを読んで、書き手の意図を理解することができる。                                                    |            |           |          | 1      | 2 | ③        | ④ |
|                                                                                   | 23 | 身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を的確に読みとったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解することができる。                                                   |            |           |          | 1      | 2 | ③        | ④ |

「共有 CAN-DO」では、その文言を見たときに生徒が「様々な単元での活動」や「筆記テストやパフォーマンステスト」を思い出せるよう、表2の年間指導計画と「CAN-DO リスト」に記述した、1つの単元や複数の単元で育成を目指す「CAN-DO の具体」の文言と対応するように作成した。「共有 CAN-DO」は年度初めに教師と生徒が共有し、教師と生徒が同じ目標に向かって進めるよう、授業を行った。最初は、鉛筆でチェックを入れ、大きな単元の終わりや学期の終わりに色ペンを使って、チェックをし直すことで、生徒が自己の成長を把握できるように工夫をした。

項目1～3に示す質問は、「英語学習への動機」や「コミュニケーションへの動機」を生徒がどの程度持っているかを把握するためのものである。学習の動機が低い生徒には、個別に声をかけるなどで役立てることができる。学習方略に関する項目5～7は、「自律的に学習する態度」を把握するためのもので、項目5、6は辞書の活用する態度と能力に関するものである。辞書の活用に関して、現行の学習指導要領解説では「カ 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること」とある（文部科学省、2008、p49）。1年生では「積極的に辞書を引くこと」、2、3年生では「例文をみて、語の使い方を理解することができたり、自分が書いた英文が正しいかどうかを検証したりできること」のように、辞書活用の目標を設定し、授業の中でも繰り返し使う機会を設けた。

項目8～11は、「コミュニケーションについての関心・意欲・態度」を把握するためのものである。この資質・能力は、特に「話すこと（やりとり）」の力の土台となると考えた。項目10「先生や友達と会話をしている時に、分からないことがあると積極的に、“Pardon? One more time, please.”と聞き返し、“Will you speak slowly?”などと要求している。」は、本校の特徴的な項目といえる。2012年から「口頭でのやりとり」の研究を進める中で、「口頭でのやりとり」の場面における「外国語理解の能力」の目標は、「相手が話すことをつぶさに理解すること」よりも、「相手が話したことを、自分がどの程度理解したのかを伝える力（相手が話したことを繰り返して話すこと）」や「相手が話したことで、理解できなかったところを伝えること（わからなかった単語を上げ調子のイントネーションで繰り返す、“I don’t understand.”と伝える等）」が重要であると考えられるようになった。項目8～11については、同様の項目を「コミュニケーションについての関心・意欲・態度」の評価規準とし、観点別学習状況の評価を行った。

中学3学年全体の英語科目目標リストと、各学年のCAN-DO リストとアンケート「共有 CAN-DO」を本稿末に掲載した。

## 2-2 「目指す姿」と「学習到達目標」の達成状況の把握

### (1) 「目指す姿」の達成状況と課題

「目指す姿」を具体化することで設定した「自律的な英語学習者としての態度目標」の達成状況を把握するために、「共有 CAN-DO」の質問紙の、生徒の自己評価の1～10について、4月実施分と3月実施分を円グラフ化して比較し変化を検討した。成果と課題を下記の4点にまとめた。

(1) 「項目2 友達や先生と英語でやりとりすることは、楽しいと思う」の項目では、4月は「非常に当てはまる」が27%、「やや当てはまる」が42%であったのに対し、年度末では「非常に当てはまる」が45%、「やや当てはまる」が38%と肯定的な評価が増えており、一年間の学習活動の成果があると認められる。

(2) 自律的な学習者を育てるための、辞書活用に関する5、6の質問からは、「積極的に使う態度」



については、一年間の中で十分な成長が確認できるが、「自分が書いた文が正しいかどうか辞書を活用して検証する力」は指導することにはさらに力を入れる必要性が指摘できる。

(3) 曖昧さに耐えながら、聞き続けたり読み続けたりする態度の育成は、授業を通して十分に育てることができていると評価できる。

(4) 聞いていてわからない時に、相手に繰り返しを求めたり、ゆっくり話すことを求めたりする力も、順調に上がっているが、その指導に重点をおいていた一学期後半の方が値は高くでており、重点的な指導をしなくなった2学期以降では値が下がっていた。

## (2) 「学習到達目標」の達成状況と課題

「1年間で育成を目指す学習到達目標」、「1つの単元や複数の単元で育成を目指す CAN-DO リスト」、「指導した単元」、「評価方法」、「評価結果」及び「共有 CAN-DO の質問紙を使った生徒自身の自己評価の変化」を並べて、指導が確実に行われたかどうか、生徒が確実に力をつけていたといえるかどうかを、5つの領域ごとに評価した(表4)。

### (a) 話すこと(やりとり)

年間の学習到達目標「身近なテーマについて、他者が話したことについて、手元にある写真や資料を用いながら、適切なやり取りをすることができる」に対して、「CAN-DO」は、①「自分の経験、継続してきたこと、やり終えたことや、過去のこと、未来のこと、将来の夢や希望などについて、相手が話したことに適切に応答しながら3分間程度会話を続けることができる(6月に会話テスト実施)」と、②「人の意見を聞いたり、読んだりして、その意見に賛成・反対の立場を明らかにし、その理由を表現することができる(1月に会話テスト実施)」の2つを設定した。

6月に行った教師の評価では、「概ね満足(b)」に満たないと評価した生徒が7%であったが、生徒の自己評価では23%の生徒が「あまりあてはまらない」か「全くあてはまらない」と回答しており、教師の評価に比べて、生徒の自己評価が低かった。「生徒が何をどのようにできて、どこに課題があったのか」を教師が適切に生徒にフィードバックができていない可能性が考えられる。

また、6月と1月の2回実施したやりとりの評価では、「概ね満足(b)」に満たない生徒が、6月では7%で、1月では8%と、どちらもほぼ同じ生徒が「概ね満足」に至っていなかった。適切な学習支援がなされていたかを再検討する必要がある。1回目の「やりとりのテスト」はシチュエーションカードを生徒が一枚引いて、カードに書かれる目的・場面・状況に合わせて、「生徒が積極的に話して、相手を〇〇に誘う」という設定であったのに対し、2回目は特定のトピックを生徒が1つ引いて、そのトピックについて生徒が賛成・反対の意見を述べたのち、そのテーマに関する教師からの質問に答えていくというものである。「CAN-DO」と対応するように「やりとり」のテストの内容が違うものになっている。同じタイプのテストを2度実施して、より達成感を高めていくという方法もある。しかし、「目的・場面・状況に応じた適切なやりとり」を到達目標にしている以上、多様なタスクを行う中で、多様な評価方法を試していく必要があると考えた。

### (b) 話すこと(発表)

年間の学習到達目標である「身近なテーマについて、自分の考えを伝えるために適切に補助資料などを用いて、発表することができる」に対して、「CAN-DO」は、①「自分の考えや意見を論理的にわかりやすく伝えること」と、②「目の前にある写真や絵に描かれる人や物について、その

表4 「学習到達目標」(5領域)の達成状況

| 2016年度3年生 「年間の学習到達目標」と「1単元や複数の単元で育成を目指すCAN-DOの具体」に基づく「教師の評価」と「生徒の自己評価」               |                                                                                      | 指導を行った単元名                                                                                                                                 | 評価結果                                       | 自己評価 | 自己評価 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|------|------|
| 1年間育成を目指す学習到達目標                                                                      | 1単元や複数の単元で育成を目指すCAN-DOの具体<br>=【共有用CAN-DOリストの文言】                                      | 【テスト方法】                                                                                                                                   | 水色○○○ 赤○○○ 灰○○○<br>黄○○○ 青○○○               | 4月   | 3月   |
| <話すこと(やりとり)><br>>身近なテーマについて、他者が話したことについて、手元にある写真や資料を用いながら、適切なやりとりすることができる。           | ・自分の経験、継続してきたこと、やり続けたことや、過去のこと、未来のこと、将来の夢や希望、などについて、相手が話したことに適切に反応しながら、3分程度会話を続けられる。 | ・会話を継続して先生を○○に誘おう                                                                                                                         |                                            |      |      |
|                                                                                      | ・人の意見を聞いたり、読んだりして、その意見に賛成・反対の立場を明らかにし、その理由を表現することができる。                               | 討論をしよう                                                                                                                                    | 【教師と生徒が1対1で会話をしながら、教師が同時に評価を行う(6月)】        |      |      |
| <話すこと(発表)><br>>身近なテーマについて、自分の考えを伝えるために適切に補助資料などを適切に用いて、発表をすることができる。                  | ・あるトピックに対して、自分の考えや意見、気持ちを論理的にわかりやすく、まとまりのある英文で相手に伝えることができる。                          | ・Program 3 環境問題について自分の考えを書こう<br>・討論をしよう<br>・Program 6, 6 日本文化を紹介しよう                                                                       |                                            |      |      |
|                                                                                      | ・目の前にある写真や絵に描かれている、人や物について、その名前やどんな人・物であるか、詳しく説明することができる。                            | ・日本文化を紹介しよう                                                                                                                               | 【日本文化を紹介しよう、のスピーチテスト】                      |      |      |
| <書くこと><br>>身近なテーマについて、自分の気持ちや考えを含んだ、一貫性のある英文を書くことができる。                               | ・人の意見を聞いたり、読んだりして、その意見に賛成・反対の立場を明らかにし、その理由を表現することができる。                               | 討論をしよう                                                                                                                                    |                                            |      |      |
|                                                                                      | ・あるトピックに対して、自分の考えや意見、気持ちを論理的にわかりやすく、まとまりのある英文で相手に伝えることができる。                          | ・Program 3 環境問題について自分の考えを書こう<br>・討論をしよう<br>・Program 6, 6 日本文化を紹介しよう                                                                       | 【2学期末テストにおける、聞いたことについて、自分の賛否を4行程度の英文で書く問題】 |      |      |
|                                                                                      | ・目の前にある写真や絵に描かれている、人や物について、その名前やどんな人・物であるか、詳しく説明することができる。                            | ・日本文化を紹介しよう                                                                                                                               | 【話しに誘う評価を行っていない】                           |      |      |
| <聞くこと><br>>身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、話し手の意図を的確に理解することができる。                  | 身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、話し手の意図を的確に理解することができる。                             | ・機内放送を聞きとろう<br>・留守番電話を聞き取ろう<br>・有名人の名言を聞こう                                                                                                |                                            |      |      |
| <読むこと><br>>身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を的確に読みとったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解したりすることができる。 | ・グラフなどを伴う2つ以上の物を比較する文章や、説明文、メールで相手の人が伝えたいことを、などを読んで、書き手の意図を理解することができる。               | ・Program 2 登場人物の気持ちを読み取って話そう<br>・Program 8 エネルギーに関する文章を読んで情報を読み取ろう                                                                        |                                            |      |      |
|                                                                                      | 身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を的確に読みとったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解したりすることができる。            | ・program 4 物語を読んで感想を書こう<br>・Program 7 国際協力に関する英文を読んで、人が感じたことや考えたことを書いて伝えよう。<br>・Program 9 平和に関する英文を読んで、感想を書こう                             | 【1学期末、2学期末のテスト】                            |      |      |
| <<総合的な力>><br>>身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えを話したり書いたりすることができる。                   | ・身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えを話したり書いたりすることができる。                                | 話す<br>・Program 1 野菜の歴史について読んだことを伝えよう<br>・Program 7 国際協力に関する英文を読んで、人が感じたことや考えたことを書いて伝えよう。<br>・Program 9 平和に関する英文を読んで、感想を書こう                |                                            |      |      |
|                                                                                      |                                                                                      | 書く<br>【1学期末テストにおける、読んだことについて、自分の考えを書く問題】<br>【2学期末】ライティングリレイにおける評価<br>【2学期末テストにおける、聞いたことについて、自分の意見を書く問題】<br>【2学期末テストにおける、読んだことについて感想を書く問題】 |                                            |      |      |

名前やどんな人・物であるか、詳しく説明することができる」の2種類を設定した。この2つの項目は、別々のテストで評価するのではなく、「日本文化を紹介しよう(スピーチテスト)」で評価した。しかし、実際に使用した評価シート(表5)では、「まとまりよく話しているか」と「詳しく説明しているか」は、「内容」という1つの項目で総合的に評価している。1つのCAN-DOに対して、1つのテスト(あるいは1つの問題)としたほうが、生徒へのフィードバックも分かり

やすくなると考えられる。どのようなテストでその学習到達目標の到達度を測るのか、検討が必要である。

表5 評価シート（日本文化を紹介しよう）

|    | 全体のでき                                                            | 内容                                                                                                                                     | 正確さと英文の複雑さ                                                 | 発音・イントネーション・スムースネス                                   |
|----|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| a  | ・非常に伝わりやすく、内容が豊かで、聞き手の興味をそそる素晴らしいものになっている。                       | ・日本の文化について詳しく説明がされている。また、自分とその文化との関わりや好きなことについてたくさん触れていて、聞き手の興味を掻き立てる内容を話している。                                                         | ・伝えたいことが正確に伝わる文法で話されている。<br>・詳しく話すために、今まで習った表現が十分に活用されている。 | ・伝わりやすい速度や、語のまとまりをもって話している。イントネーションや発音が大変伝わりやすい。     |
| b  | ・人前で話すスピーチとして概ね満足できる仕上がりになっている。あるいは、伝えるための努力や工夫が感じられるスピーチになっている。 | ・日本の文化について説明ができていて、より詳しい説明をしたり、自分とその文化との関わりや考えていることなどがより具体的に話せるともっと良い。                                                                 | ・多少の間違いがあるが、概ね伝わるように話すことができています。                           | ・多少聞き取りづらい部分があるが、おおむね伝わる発音で、概ね伝わる語のまとまりで話すことができています。 |
| b+ |                                                                  | tanabata, traditional festival, make a wish on a star, or hime, hkokoboshi the history, amano-gawa<br>歴史や文化の説明が具体的にいいね。自分のことをもっと話してみて！ | once in a year...                                          |                                                      |

↑内容面での先生のメモなど

↑間違いがある表現や発音など

### (c) 「書くこと」

年間の学習到達目標「身近なテーマについて、自分の気持ちや考えを含んだ、一貫性のある英文を書くことができる」に対して、「CAN-DO」は、①「賛成・反対の立場を明らかにし、その理由を表現する」、②「気持ちや考えを論理的にわかりやすく、まとまりのある英語で伝える」、③「詳しく説明する」の3つを設定した。このうち、①、②については2学期末の定期テストで記録に残す評価を行っているが、③の力を測

るライティングのテストを実施していなかった。

教師の評価は、「概ね満足（b）」に満たない生徒が13%であったが、否定的な自己評価をしている生徒は、①16%、②15%、③15%で、「書くこと」については、「話すこと」に比べて、教師の評価と生徒の自己評価の差異が少なかった。また、①、②、③の3つの「CAN-DO」はそれぞれ同じ言語活動の題材や条件で「話すこと」の指標が存在しているが、4月当初では、全体的に「話すこと」よりも「書くこと」の方が得意であると感じていた生徒が多かったのに対し、3月の調査では、「話すこと」も「書くこと」も同程度まで力がついたと生徒が感じていることが分かった。生徒の自己評価からは、5領域がバランスよく指導されていると評価できる。

### (d) 「聞くこと」

年間の学習到達目標「身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、話し手の意図を的確に理解することができる」に対して、「CAN-DO」は全く同じ文言で1つだけしか設定されていない。話すこと（やりとり）」の指導と評価や「話すこと（発表）」の指導と評価については、長年の実践の積み上げがあり、指導方法や評価方法にも多様なパターンを持っているため、生徒と共有する段階でも、ある程度具体的に示すことができている。一方で、「聞くこと」の力を高める指導や評価の検討をこれまで十分に行っていないことから、聞くことを中心にした単元も、年間指導計画では3つしか設定されておらず、しかも、そのうち1つは他の単元の指導に時間を取られて、実施されていなかった。

1学期の定期テストについては、「聞くこと」と「読むこと」の合計点を「理解の得点」として記録して残していたため、1学期の段階での「聞くこと」の評価の実態を把握できなかった。しかし、「聞くこと」をゴールにした単元や指導が不十分であるように見えるにも関わらず、2学期に行った定期テストの「聞くこと」の力では、「概ね満足（b）」に満たなかった生徒は全体の1%だけであり、5領域のうちで最も教師が高い評価を与えていた。その理由は、「話すこと」や「書

くこと」を育てる単元でも、友達や先生が話す言葉を多く聞く機会があったり、話すことの練習として、教科書に付随するCDを使ってシャドーウィングをしたりする中で、生徒が聞くことへの力を伸ばしていたことが考えられる。次期中学校学習指導要領外国語科(文部科学省、2017)で聞くことの目標には、「概要を理解すること」、「必要な情報を聞き取ること」、「要点を捉えること」の3つの聞き方が示されており、これらを「CAN-DO」として適切に設定し、それに対応する評価を行っていくことが今後の課題として考えられる。

#### (e) 「読むこと」

年間の学習到達目標「身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を的確に読み取ったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解したりすることができる」に対し、「CAN-DO」は、①「グラフなどを伴う2つ以上の物を比較する文章や、説明文、メールで相手の人が伝えたいことなどを読んで、書き手の意図を理解することができる」、②「身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を的確に読み取ったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解することができる」の2つを設定した。定期テストでの読解問題の①は100語程度の中文の問題を想定、②は300語程度の長文の問題を想定した「CAN-DO」である。

読むことについて指導を行った単元では、「読んだことについて感想を書く」、「読んだことについて考えを書いて伝える」といった技能統合型の言語活動を行った。丁寧な文法の説明や訳読をすることなく、何を読み取り、読み取ったことに対して何を感じたのかを話したり、書いたりして伝え合う活動を重視して指導を行った。テストの問題でも、読んで理解したことについて本文中の英語を使って答える問題など、理解しているだけでなく、「自分がどのように理解したのかを、日本語や英語で適切に表現できて初めて得点となる」という問題を2学期には多く出題した。

①に関して、定期テストにおける「読むこと」の問題を再分析したところグラフを伴う二つの物を比較する文章は、1題も出題していなかった。「CAN-DO」は、どんなテスト問題を使って、あるいはどんなパフォーマンステストを使って評価するか、事前に想定をしながら設定をすることが重要であり、目標、指導、評価の一体化を目指していく必要がある。また、1学期の定期テストでは「聞くこと」と「読むこと」の合計点を「理解の得点」として記録して残していたため、1学期の段階での「読むこと」の評価の実態を把握することができなかった。2学期に行った定期テストにおいても、①に係る問題と、②に係る問題の得点の合計点として記録していたため、それぞれの力についての到達目標が把握できなかった。「聞くこと」と同様に、次期中学校学習指導要領(文部科学省、2017)で目標にある「概要の理解すること」、「必要な情報を聞き取ること」、「要点を理解すること」が適切に反映された「CAN-DO」に書き換えていく必要がある。

#### (f) 「統合的な力」

統合的な力の学習到達目標は、「身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えを話したり書いたりすることができる」に対して、「CAN-DO」は「身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことについて、その内容をメモ等を使いながら伝達したり、自分の意見や考えを述べるることができる」として「話すこと」「書くこと」の2つを設定した。

指導を行った単元における言語活動では、「野菜や果物の歴史や起源について読んだことを地図にメモして、読んだ内容を地図やメモを活用して話す活動」、「読んだことについて、問答をし合う活動」、「読んだことについて自分の感想を口頭で述べあう活動」が多く行われていたが、「読ん

だことについて、話す力」の目標の達成状況を把握することは時間数が十分とれずできなかった。

2 学期の定期テストでは「聞いたことについて、賛成・反対の立場を明らかにして自分の考えを書く問題」や「読みとったことに基づいて自分の感想を書く問題」を行った。また、単元末に行ったライティング・リレイでは、友達を書いた意見や考えについて、自分の考えを書くタスクを記録に残す学習評価に活用するなど、技能統合的な力を測る評価を多く行った。

教師が「努力を要する (c○)」と判定した生徒が 10%、「一層努力を要する (c)」と判定した生徒が 5%いたことは、「書くこと」の評価と同様に、定期テストにおける「読むこと (中文や長文の問題)」に時間を多く割いてしまい、「書くこと」の問題で無回答だったたり、十分な時間を割くことができなかつた生徒が存在していたからである。このような状況では、測りたい力を適切に測ることができているとは言えない。単元末のテストを実施して授業の中で学習評価を行うなどして、それぞれの CAN-DO 項目について、生徒がどの程度到達していたのかを評価し、それをフィードバックして、次の学習につなげていけるよう支援していくことが必要である。2016 年度は 5 領域の「学習到達目標」とは別に「技能統合的な力」を書き出し、技能統合的な力の指導と評価を重点的に行ったが、一つの評価方法で複数の CAN-DO 項目の到達状況を評価しようとしていたり、記録に残す評価ができていなかったりした項目もあったことから、限られた授業時間の中で指導と評価を行っていくことを考えると、目標の精選が必要であることが明らかになった。

### 2-3 まとめ

「年間で育成を目指す学習到達目標」「1 単元や複数の単元で育成を目指す CAN-DO」「実際に指導した単元」「評価方法」「評価結果」及び「CAN-DO に基づく生徒の自己評価の変容」を並べて検討することは、目標に準拠した指導と評価を着実に進めていくために非常に有益な方法であるといえる。このことにより、①学習到達目標や CAN-DO の目標設定が適切かどうか、②実施に指導したか、③評価をしたか、④到達状況、⑤フィードバックが適切かなどを検証することができた。本実践では、①学習指導が適切であったかの検討と、②「テスト問題」や「パフォーマンステスト」の信頼性、妥当性の検討を行ってはいない。今後、学習評価の信頼性や妥当性を検証し、一層指導と評価の一体化を図っていくことが重要であると考ええる。

### 謝辞

附属鎌倉中学校英語科における目標設定やその活用方法について、神奈川県子ども教育課元指導主事伊積秀人先生と現指導主事後藤博宣先生に丁寧なご指導を頂きました。感謝申し上げます。本稿は、関東甲信越英語教育学会新潟研究大会 (2017. 8. 26) で口頭発表した内容をまとめたものです。本研究は、科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号 17K03005 の支援を受けました。

### 引用文献

- Council of Europe (2001). *Common European framework of reference for languages: learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 教育課程企画特別部会 (2015). 論点整理. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf)

- 国立教育政策研究所(2011). 評価規準作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校英語】. 国立教育政策研究所 教育課程研究センター.
- 国立教育政策研究所(2013). 教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書 5. 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則. 国立教育政策研究所教育課程研究センター. (平成 24 年度プロジェクト研究調査研究報告書. 研究代表者 勝野頼彦.)  
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/Houkokusho-5.pdf>
- 島根県教育庁義務教育課 (2014). 中学校外国語科「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標作成ガイド. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/092/shiryu/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2014/03/04/1344696\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/092/shiryu/__icsFiles/afieldfile/2014/03/04/1344696_01.pdf)
- 中央教育審議会 (2016). 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申). [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)
- 投野由紀夫編(2013). CAN-DO リスト作成・活用英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック. 大修館書店.
- 兵庫県教育委員会(2015). 「兵庫版基本 CAN-DO リスト」及びその活用について. [http://www.hyogo-c.ed.jp/~koko-bo/bosyuukokuti/naiyou/tokusyoku/candolist/candolist\(A4ver.\).pdf](http://www.hyogo-c.ed.jp/~koko-bo/bosyuukokuti/naiyou/tokusyoku/candolist/candolist(A4ver.).pdf)
- 松畑熙一・佐野正之(監修)(2014). *Sunshine English Course 3*. 開隆堂出版.
- 文部科学省(2003). 「英語が使える日本人」の育成のための行動計画.  
<http://e-jes.org/03033102.pdf>
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課(2010). 児童生徒の学習評価の在り方について(報告).  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm)
- 文部科学省外国語能力の向上に関する検討会(2011). 国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf)
- 文部科学省初等中等教育局 (2013). 各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での 学習到達目標設定のための手引き. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf)
- 文部科学省(2008). 中学校学習指導要領解説 外国語編. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912\\_010\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/01/05/1234912_010_1.pdf)
- 文部科学省 (2017). 中学校学習指導要領解説 外国語編. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387018\\_10\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/07/25/1387018_10_1.pdf)
- 文部科学省(2017). 平成 28 年度「英語教育実施状況調査」の結果について. 初等中等教育局国際教育課外国語推進室. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1384230.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1384230.htm)
- 横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校(2015). 平成 27 年度研究紀要第 31 集. 育成したい資質・能力をふまえた授業づくりと評価. 横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校.
- 吉村美幸・富田秀明・川崎美和(2017). 福井県英語学習 CAN-DO リストの活用—目標と指導と評価の一体化を目指して—. <http://www.fukui-c.ed.jp/~fec/siraberu/siraberu /kiyou/h27kiyou/09eigo.pdf>

## 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校 英語科 目標リスト

|                                            | 1年生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 2年生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 3年生                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1年間で育成を目指す大きな目標                            | <p>I 自律的に学び、多少の英語の習いに耐えることなく、積極的に他者と伝え合う生徒。</p> <p>II 《話す力(やりとり)》 自分自身や身の回りのことについて、教師または友人と、手元にある写真や資料を用いながら、会話を続けることができる。(1分間程度)</p> <p>III 《話す力(発表)》 自分自身や身の回りのことについて、発表をすることができる。(1分間程度)</p> <p>IV 《書く力》 自分自身や身の回りのことについて、たぐさんの英文を書くことができる。</p> <p>V 《聞く力》 身の回りのことについて、まとまりのある英文を聞いて、概要を理解することができる。</p> <p>VI 《読む力》 身の回りのことについて、書かれた簡単な英文を読み、その概要を理解することができる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>I 自律的に学び、「伝えたい」「知りたい」という気持ちをもって、相手に配慮しながら、互いの気持ちや考えを適切に伝え合う生徒。</p> <p>II 《話す力(やりとり)》 身近なテーマについて、教師または友人と手元にある写真や資料を用いながら、会話を続けることができる。(2分程度)</p> <p>III 《話す力(発表)》 身近なテーマについて、自分の気持ちや考えを含んだ発表をすることができる。(2分程度)</p> <p>IV 《書く力》 身近なテーマについて、自分の気持ちや考えを含んだまとまりのある英文を書くことができる。</p> <p>V 《聞く力》 身近なテーマについて、話されるまとまりのある英語を聞いて、内容的に正確に理解することができる。</p> <p>VI 《読む力》 身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、内容的に正確に理解することができる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>I 自律的に学び、他者や世界に關心をもち、4技能を統合的に活用しながら、相手に配慮し、互いの気持ちや考えを適切に伝え合う生徒。</p> <p>II 《話す力(やりとり)》 身近なテーマについて、他者が話したことや読んだことについて、手元にある写真や資料を用いながら、適切なやりとりをすることができる。(3分間程度)</p> <p>III 《話す力(発表)》 身近なテーマについて、自分の考えを伝えるために適切に補助資料を用いて、発表をすることができる。(3分間程度)</p> <p>IV 《書く力》 身近なテーマについて、聞いたことや読んだことを活用して、自分の考えを、まとまりのある文章で書くことができる。</p> <p>V 《聞く力》 身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、話し手の意図を正確に理解することができる。</p> <p>VI 《読む力》 身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読み、書き手の意図を正確に読みとったり、伝記や簡単な物語を読み、概要を理解したりすることができる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 大きな目標を達成するための、具体的な達成目標                     | <p>アンケート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>私は英語の学習が好きである。</li> <li>友達や先生と英語でやりとりすることは楽しい。</li> <li>英語で相手に自分の考えや気持ち伝えることは楽しい。</li> </ol> <p>学習方略</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>分からない単語がある時や、意味の仕方が分からない時に、積極的に英和辞書や和英辞書を使っている。</li> </ol> <p>コミュニケーションスキル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>辞書を引きながら、音調を調べたり、発音を理解したり、例文をみて、使い方を理解することができる。</li> <li>意味の仕方が分からない時に、英語で先生にHow do you say～?と聞いたり、分からない単語がある時にWhat does ～mean?を使って聞いている。</li> </ol> <p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>友達や先生と英語で会話をしている時や、スピーチの発表の時には、多少の間違いを恐れずに、積極的に英語で話している。(1年)</li> <li>英語を聞いたり、読んだりしている際、多少分からない事があったとしても、そのわからなさに耐えながら、内容に關心をもって、聞き続けたり、読み続けたりしている。</li> <li>友達や先生と英語で会話をしている時、分からないことがあると、Parson? One more time, pleaseと聞き直したり、Will you speak slowly?などと要求することを、積極的にしている。</li> <li>友達や先生と英語で会話をしているときに、自分が読みたいことが英語で分からない時でも、知っている単語を調べたり、身振り手振りを交えたりして、相手に伝えようとしている。</li> </ol>                                                                                                  | <p>アンケート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>私は英語の学習が好きである。</li> <li>友達や先生と英語でやりとりすることは楽しい。</li> <li>英語で相手に自分の考えや気持ち伝えることは楽しい。</li> </ol> <p>学習方略</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>分からない単語がある時や、意味の仕方が分からない時に、積極的に英和辞書や和英辞書を使っている。</li> </ol> <p>コミュニケーションスキル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>辞書を引きながら、音調を調べたり、発音を理解したり、例文をみて、使い方を理解することができる。</li> <li>意味の仕方が分からない時に、英語で先生にHow do you say～?と聞いたり、分からない単語がある時にWhat does ～mean?を使って聞いている。</li> </ol> <p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>友達や先生と英語で会話をしている時や、スピーチの発表の時には、相手のことを知りたがり、自分のことを「伝えたい」という気持ちをもって、コミュニケーションを求めている。(2年)</li> <li>英語を聞いたり、読んだりしている際、多少分からない事があったとしても、そのわからなさに耐えながら、内容に關心をもって、聞き続けたり、読み続けたりしている。</li> <li>友達や先生と英語で会話をしている時、分からないことがあると、Parson? One more time, pleaseと聞き直したり、Will you speak slowly?などと要求することを、積極的にしている。</li> <li>友達や先生と英語で会話をしているときに、自分が読みたいことが英語で分からない時でも、知っている単語を調べたり、身振り手振りを交えたりして、相手に伝えようとしている。</li> </ol>            | <p>アンケート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>私は英語の学習が好きである。</li> <li>友達や先生と英語でやりとりすることは楽しい。</li> <li>英語で相手に自分の考えや気持ち伝えることは楽しい。</li> </ol> <p>学習方略</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>分からない単語がある時や、意味の仕方が分からない時に、積極的に英和辞書や和英辞書を使っている。</li> </ol> <p>コミュニケーションスキル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>辞書を引き、例文をみてその語の使い方を確認することで、自分が書いた英文が正しいかどうか、確認することができる。</li> <li>意味の仕方が分からない時に、英語で先生にHow do you say～?と聞いたり、分からない単語がある時にWhat does ～mean?を使って聞いている。</li> </ol> <p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>英語を話したり、書いたりする際には、相手の人や世の中に関心をもち、積極的に自分の気持ちや考えを伝え合っている。(3年)</li> <li>英語を聞いたり、読んだりしている際、多少分からない事があったとしても、そのわからなさに耐えながら、内容に關心をもって、聞き続けたり、読み続けたりしている。</li> <li>友達や先生と英語で会話をしている時、分からないことがあると、Parson? One more time, pleaseと聞き直したり、Will you speak slowly?などと要求することを、積極的にしている。</li> <li>友達や先生と英語で会話をしているときに、自分が読みたいことが英語で分からない時でも、知っている単語を調べたり、身振り手振りを交えたりして、相手に伝えようとしている。</li> </ol>                                                                                                    |
| 1つの単元や複数の単元で育成を目指す、具体的な学習到達目標 (CAN-DO リスト) | <p>話すこと(やりとり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自分のこと、相手のこと、自分の身の回りのことなどについて(聴取・理解)の中心となる単語や構文などをテーマに、PQRを駆使して、会話を続けることができる。(1分程度)</li> <li>聞いたり、読んだりした内容について、相手に簡単に伝えることができる。</li> </ol> <p>話すこと(発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自分が住んでいる場所、興味があること、好きな動物やスポーツなど、自分のことについてたくさん発表することができる。</li> <li>自分の友達や家族や学校の先生と自分の身の回りの人たちについて、興味など、たくさん発表することができる。</li> </ol> <p>書くこと(発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自分の好きな本、映画、マンガなどについて説明することができる。好きな本や映画、キャラクターの性格、簡単なストーリーなどを、まとまりをもって発表することができる。</li> </ol> <p>読むこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「大文字で書き始める」「文末に./!/?を必ず付ける」「英文の間はスペース程度空ける」というルールをいつまでも守って、英文を書くことができる。</li> </ol> <p>聞くこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことについて話される英文を聞いて、目的・場面・状況に合わせて内容を聞き取らなければならないかを自分で判断して聞き取ることができる。(話した内容が理解できる)</li> <li>電話のメッセージや、人からの依頼に対して、適切に応じることができる。</li> <li>身の回りのことについて書かれた簡単な英文を読んで、目的・場面・状況に合わせて内容を聞き取らなければならないかを自分で判断して聞き取ることができる。(特に重要な内容が理解できる)</li> <li>文、手紙、町の看板など、簡単な言葉で書かれた英文を読んで、内容を理解できる。</li> </ol> | <p>話すこと(やりとり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>伝えたいこと、自分が過去にした経験や、今後の予定、自分のことなどについて、PQRを駆使して、会話を続けることができる。(2分程度)</li> <li>聞いたり読んだりした内容について、相手に簡単にわかりやすく伝えることができる。</li> </ol> <p>話すこと(発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>昨日のこと、週末にしたこと、長期休暇にしたことなどを、まとまりよく発表することができる。</li> <li>明日の予定や、今後の予定、未来の旅行の予定などを、まとまりよく発表することができる。</li> <li>自分のお気に入りの場所や、印象的な場所、自分が住んでいる町などを、まとまりある英語で発表することができる。</li> </ol> <p>書くこと(発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>相手にアドバイスをしたり、自分がすべきこと、やるべきでないこと、などを説明することができる。</li> <li>身近なテーマについて、自分の意見や考えについて、わかりやすく、まとまりよく発表することができる。</li> </ol> <p>読むこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、目的・場面・状況に合わせて内容を聞き取らなければならないかを自分で判断して時々に理解することができる。(特に、重要な情報の聞き取り)</li> <li>電話のメッセージや、人からの依頼に対して、適切に応じることができる。</li> <li>身近なテーマについて書かれたまとまりある英文を読んで、目的・場面・状況に合わせて内容を聞き取らなければならないかを自分で判断して読み取ることができる。(特に重要な情報や要旨の聞き取り)</li> <li>文、手紙など、まとまりある言葉で書かれた英文を読んで、内容を理解出来る。</li> </ol> | <p>話すこと(やりとり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自分の経験、話してきたこと、やり終えたことや、過去のこと、未来のこと、相手のことなどについて、相手に話したことに適切に反応しながら、会話を続ける事ができる。(2分程度)</li> <li>人の意見を聞いたり、読んだりして、その意見に賛成・反対の立場を明らかにし、その理由を説明することができる。</li> </ol> <p>話すこと(発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>あるトピックに対して、自分の考えや意見、気持ちを論理的にわかりやすく、まとまりのある英文で相手に伝えることができる。(When, Because, So, And, If, But, First, Secondなどの表現を使う)</li> <li>目の前にある写真や物に描かれている人や物について、その名前や人・人・物であるか、詳しく説明することができる。(過去分詞や現在分詞の活用形、関係代名詞を使う)</li> </ol> <p>話すこと(発表)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身近なテーマについて、聞いたことや読んだことについて、その内容を自分の意見や感想から話したり、自分の意見や考えを述べることができる。(I think, I believe, because, whenなどを使って)</li> </ol> <p>聞くこと</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、目的・場面・状況に合わせて内容を聞き取らなければならないかを自分で判断して時々に理解することができる。(特に、重要な情報の聞き取り)</li> <li>電話のメッセージや、人からの依頼に対して、適切に応じることができる。</li> <li>身近なテーマについて書かれたまとまりある英文を読んで、目的・場面・状況に合わせて内容を聞き取らなければならないかを自分で判断して読み取ることができる。(特に重要な情報や要旨の聞き取り)</li> <li>伝記や簡単な物語を読み、概要を理解することができる。</li> </ol> |

## 1年生 共有CAN—DOリスト

**1年間で目指す姿： 自ら学ぼうとし、多少の間違いを恐れることなく、積極的に他の人と伝え合うことができる。**

|                     |      | 全く当てはまらない<br>1                                                                                                   | あまり当てはまらない<br>2                                                                    | まあまあ当てはまる<br>3 | 非常に当てはまる<br>4 |                                    |                                    |
|---------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|----------------|---------------|------------------------------------|------------------------------------|
| アンケート               | 1    | 私は英語の学習が好きである。                                                                                                   |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 2    | 友達や先生と英語でやりとりをすることは楽しい。                                                                                          |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 3    | 英語で相手に自分の考えや気持ちを伝えることは楽しい。                                                                                       |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
| 学習方略                | 4    | 分からない単語がある時や、表現の仕方が分からない時に、積極的に英和辞書や和英辞書を使っている。                                                                  |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
| コミュニケーションスキル        | 5    | 辞書を引いたら、品詞を調べたり、発音を理解したり、例文をみて、使い方を理解することができる。                                                                   |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 6    | 表現の仕方が分からない時に、英語で先生にHow do you say? What does ~mean?を使って聞いている。                                                   |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
| コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 7    | 友達や先生と英語で会話をしている時や、スピーチの発表の時には、多少の間違いを恐れずに、積極的に英語で話している。(1年)                                                     |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 8    | 英語を聞いたり、読んだりしている際、多少分からない事があっても、そのわからさに耐えながら、内容に関心をもって、聞き続けたり、読み続けたりしている。                                        |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 9    | 友達や先生と英語で会話をしている時に、分からないことがあると、Pardon? One more time, please. と聞き返したり、Will you speak slowly?などと要求することを、積極的にしている。 |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 10   | 友達や先生と英語で会話をしているときに、自分が表現したいことが英語で分からない時でも、知っている単語を並べたり、身振り手振りを交えたりして、相手に伝えようとしている。                              |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
| 話す事(やりとり)           | 11   | 自分のこと、相手のこと、自分の身の回りの人・ことなどについて(趣味・学校のこと・好きな事・部活などをテーマに)、PQRを駆使して、会話を続けることができる。(1分程度)                             |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 12   | 聞いたり、読んだりした内容について、相手に簡単に伝えることができる。                                                                               |                                                                                    |                |               |                                    |                                    |
| 話すこと(発表)            | 12   | 自分が住んでいる場所、興味があること、好きな教科やスポーツなど、自分のことについてたくさん表現することができる。                                                         |                                                                                    |                |               | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |                                    |
|                     | 13   |                                                                                                                  |                                                                                    |                |               | 書く 1    .    2    .    3    .    4 |                                    |
|                     | 14   | 自分の友達や家族や学校の先生など自分の身の周りの人たちについて紹介することができる。住んでいる場所、興味があること、容姿、性格、趣味など、たくさん表現することができる。                             |                                                                                    |                |               | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |                                    |
|                     | 15   |                                                                                                                  |                                                                                    |                |               | 書く 1    .    2    .    3    .    4 |                                    |
|                     | 書くこと | 16                                                                                                               | 自分の好きな本、映画、マンガなどについて説明することができる。好きなキャラクター、キャラクターの性格、簡単なストーリーなどを、まとまりをもって表現することができる。 |                |               |                                    | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |
|                     |      | 17                                                                                                               |                                                                                    |                |               |                                    | 書く 1    .    2    .    3    .    4 |
|                     |      | 18                                                                                                               |                                                                                    |                |               |                                    | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |
|                     |      | 19                                                                                                               | 写真や絵を見せながら、様子や状況について簡単に表現することができる。                                                 |                |               |                                    | 書く 1    .    2    .    3    .    4 |
| 書くこと(基本)            | 20   | 大文字で書き始める、文末に . / ! / ? を必ず付ける。文と文の間は2スペース程度空ける というルールをいつでも守って、英文を書くことができる。                                      |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
| 聞くこと                | 22   | 身の回りなことについてはっきり話される英文を聞いて、目的・場面・状況に合わせて何を聞かなければいけないのかを自分で判断して聞き取ることができる。(だいたいの内容が理解できる)                          |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 23   | 電話のメッセージや、人からの依頼に対して、適切に応じることができる。                                                                               |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
| 読むこと                | 24   | 身の回りなことについて書かれた簡単な英文を読んで、目的・場面・状況に合わせて何を読み取らなければいけないのかを自分で判断して聞き取ることができる。(だいたいの内容が理解できる)                         |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     | 25   | メモ、手紙、町の看板など、簡単な言葉で書かれた英文を読んで、内容を理解できる。                                                                          |                                                                                    |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |                                    |
|                     |      | 1回目                                                                                                              | 2回目                                                                                | 3回目            | 4回目           |                                    |                                    |



## 2年生 共有CAN-DOリスト

**一年間で目指す姿:**  
**自ら学び、「伝えたい」「知りたい」という気持ちをもって、相手に配慮しながら(相手意識のある)、互いの気持ちや考えを適切に伝え合うことができる**

|                             |    | 全く当てはまらない<br>1                                                                                                   | あまり当てはまらない<br>2 | まあまあ当てはまる<br>3 | 非常に当てはまる<br>4 |   |
|-----------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------|---------------|---|
| アンケート                       | 1  | 私は英語の学習が好きである。                                                                                                   |                 |                |               |   |
|                             | 2  | 友達や先生と英語でやりとりをすることは楽しい。                                                                                          |                 |                |               |   |
|                             | 3  | 英語で相手に自分の考えや気持ちを伝えることは楽しい。                                                                                       |                 |                |               |   |
| 学習方略<br>コミュニケーション<br>スキル    | 4  | 分からない単語がある時や、表現の仕方が分からない時に、積極的に英和辞書や和英辞書を使っている。                                                                  |                 |                |               |   |
|                             | 5  | 辞書を引いたら、品詞を調べたり、発音を理解したり、例文をみて、使い方を理解することができる。                                                                   |                 |                |               |   |
|                             | 6  | 表現の仕方が分からない時に、英語で先生にHow do you say～? What does～mean?を使って聞いている。                                                   |                 |                |               |   |
| コミュニケーション<br>への関心・意欲・<br>態度 | 7  | 友達や先生と英語で会話をしている時や、スピーチの発表の時には、相手のことを「知りたい」、自分のことを「伝えたい」という気持ちをもって、コミュニケーションをしている。                               |                 |                |               |   |
|                             | 8  | 英語を聞いたり、読んだりしている際、多少分からないことがあっても、そのわからなさに耐えながら、内容に関心をもって聞き続けたり、読み続けたりしている。                                       |                 |                |               |   |
|                             | 9  | ・友達や先生と英語で会話をしている時に、分からないことがあると、Pardon? One more time, please.と聞き返したり、Will you speak slowly?などと要求することを、積極的にしている。 |                 |                |               |   |
|                             | 10 | 友達や先生と英語で会話をしているときに、自分が表現したいことが英語で分からない時でも、知っている単語を並べたり、身振り手振りを交えたりして、相手に伝えている。                                  |                 |                |               |   |
| 話すこと                        | 11 | 将来したいこと、自分が過去にした経験や、今後の予定、自分のことなどについて、PQRを駆使して、2分程度会話を続けることができる。                                                 |                 |                |               |   |
|                             | 12 | 聞いたり読んだりした内容について、相手にまともによく伝えることができる。                                                                             |                 |                |               |   |
|                             | 13 | 道案内をすることができる。                                                                                                    |                 |                |               |   |
| 話すこと<br>(発表)<br>書くこと        | 14 | 話す                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 15 | 書く                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 16 | 話す                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 17 | 書く                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 18 | 話す                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 19 | 書く                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 20 | 話す                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 21 | 書く                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 22 | 話す                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
|                             | 23 | 書く                                                                                                               | 1               | 2              | 3             | 4 |
| 24                          | 話す | 1                                                                                                                | 2               | 3              | 4             |   |
| 25                          | 書く | 1                                                                                                                | 2               | 3              | 4             |   |
| 聞くこと                        | 26 | 身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとものある英語を聞いて、話手の意図を的確に理解することができる。                                                           |                 |                |               |   |
|                             | 27 | 電話のメッセージや、人からの依頼に対して、適切に応じることができる。                                                                               |                 |                |               |   |
| 読むこと                        | 28 | 身近なテーマについて書かれたまとものある英文を読んで、目的・場面・状況に合わせて何を読み取らなければいけないかを自分で判断して的確に理解することができる。(特に必要な情報の聞き取り)                      |                 |                |               |   |
|                             | 29 | メモ、手紙などまともある言葉で書かれた英文を読んで、内容を理解できる。                                                                              |                 |                |               |   |

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 |
|-----|-----|-----|-----|

### 3年生 共有CAN-DOリスト

**卒業時の目指す姿：**

**自立的に学び、他者や世界に関心を持ち、聞く・話す・読む・書くことを必要に応じて組み合わせながら、互いの気持ちや考えを適切に伝え合うことができる**

|                                 |    | 全く当てはまらない<br>1                                                                                                      | あまり当てはまらない<br>2 | まあまあ当てはまる<br>3 | 非常に当てはまる<br>4 |                                    |
|---------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------|---------------|------------------------------------|
| アンケート                           | 1  | 私は英語の学習が好きである。                                                                                                      |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 2  | 友達や先生と英語でやりとりをすることは楽しい。                                                                                             |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 3  | 英語で相手に自分の考えや気持ちを伝えることは楽しい。                                                                                          |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
| 学習方略<br>コミュニケーション<br>スキル        | 4  | 分からない単語がある時や、表現の仕方が分からない時に、積極的に英和辞書や和英辞書を使っている。                                                                     |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 5  | 辞書を引き、例文をみてその語の使い方を確認することで、自分が書いた英文が正しいかどうか、検証することができる。                                                             |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 6  | 表現の仕方が分からない時に、英語で先生にHow do you say～? What does～mean?を使って聞いている。                                                      |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
| コミュニケーション<br>への関<br>心・意欲・<br>態度 | 7  | 英語で話したり、書いたりする時は、相手の人や世の中に関心を持ち、積極的に自分の気持ちや考えを伝え合っている。(3年)                                                          |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 8  | 英語を聞いたり、読んだりしている際、多少分からない事があっても、そのわからずに耐えながら、内容に関心をもって、聞き続けたり、読み続けたりしている。                                           |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 9  | 友達や先生と英語で会話をしている時に、分からないことがあると、Pardon? One more time, please.と聞き返したり、Will you speak slowly?などと要求することを、積極的にしている。     |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 10 | 友達や先生と英語で会話をしているときに、自分が表現したいことが英語で分からない時でも、知っている単語を並べたり、身振り手振りを交えたりして、相手に伝えようとしている。                                 |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
| 話す事<br>書く事<br>(やりとり)            | 12 | 自分の経験、継続してきたこと、やり終えたことや、過去のこと、未来のこと、将来の夢や希望、などについて、相手が話したことに適切に応答しながら、会話を続ける事ができる。(3分程度)                            |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 13 | 人の意見を聞いたり、読んだりして、その意見に賛成・反対の立場を明らかにし、その理由を表現することが出来る。                                                               |                 |                |               | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |
|                                 | 14 |                                                                                                                     |                 |                |               | 書く 1    .    2    .    3    .    4 |
| 話すこと<br>(発表)<br>書くこと            | 15 | あるトピックに対して、自分の考えや意見、気持ちを論理的にわかりやすく、まとまりのある英文で相手に伝えることができる。(When, Because, So, And, If, But, First, Secondなどの表現を使って) |                 |                |               | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |
|                                 | 16 |                                                                                                                     |                 |                |               | 書く 1    .    2    .    3    .    4 |
|                                 | 17 | 目の前にある写真や絵に描かれている、人や物について、その名前やどんな人・物であるか、詳しく説明することができる。(過去分詞や現在分詞の後置修飾、関係代名詞を使って)                                  |                 |                |               | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |
|                                 | 18 |                                                                                                                     |                 |                |               | 書く 1    .    2    .    3    .    4 |
|                                 | 19 | 身近なテーマについて、聞いたり読んだりしたことについて、その内容をメモ等を使いながら伝達したり、自分の意見や考えを述べる事ができる。(I think, I believe, because, whenなどを使って)         |                 |                |               | 話す 1    .    2    .    3    .    4 |
| 聞くこと                            | 20 | 身近なテーマについて、自然な速度で話されるまとまりのある英語を聞いて、目的・場面・状況に合わせて何を聞かなければいけないのかを自分で判断して的確に理解することができる。(特に、要点や話し手の意図の聞き取り)             |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 21 | 電話のメッセージや、人からの依頼に対して、適切に応じることができる。                                                                                  |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
| 読むこと                            | 22 | 身近なテーマについて書かれたまとまりのある英文を読んで、目的・場面・状況に合わせて何を読み取らなければいけないのかを自分で判断して読み取ることができる。(特に書き手の意図や要点の読み取り)                      |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |
|                                 | 23 | 伝記や簡単な物語を読み、概要を理解することができる。                                                                                          |                 |                |               | 1    .    2    .    3    .    4    |

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 |
|-----|-----|-----|-----|